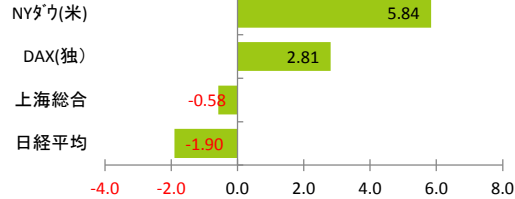


### ○金融市場の動向 (10月中)

#### 1. 株式市場

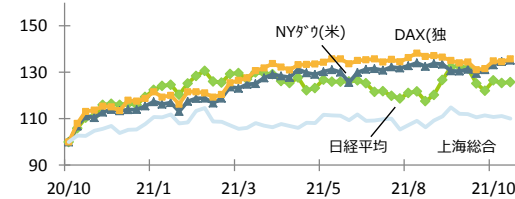
各国株式相場はまちまち。米国株式相場は、中国金融市場を巡る信用リスクの高まりや米国の債務上限問題への懸念から売りが強まる場面がみられた。ただしその後は、米企業の良好な決算発表が相次いだことや、9月の小売売上高が市場予想を上回ったことを受けて、買いが優勢となり、米国株式相場は上昇する展開となった。

##### ●各国株式指数の月次騰落率 (%)



国内株式相場は下落。岸田新政権が金融所得課税を見直すとの報道が嫌気されたことや、衆議院選挙を前に国内政治情勢の先行き不透明感が強まったことから、売り優勢の展開となった。

##### ●各国株式指数の推移 (2020年10月末を100)

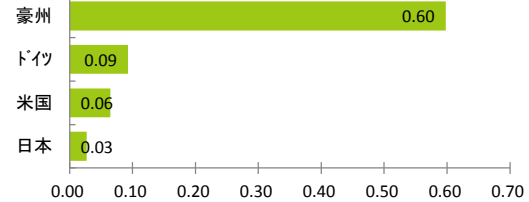


中国株式相場は下落。不動産税を一部都市で導入方針との報道が嫌気されたことや、7-9月期GDPが市場予想を下回ったことで、下落する展開となった。

#### 2. 債券市場

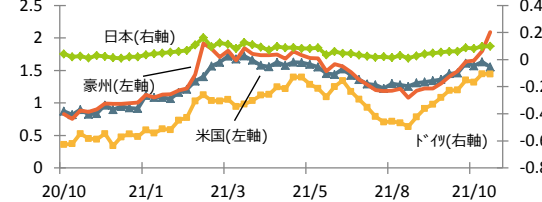
各国金利は上昇。米国債券相場は、原油などの資源価格の上昇を背景にインフレ懸念が強まったことや9月の小売売上高が市場予想を上回ったことを受けて、債券売り(金利上昇)が優勢となった。ただし、月末にかけてはFOMC(米連邦公開市場委員会)を控えて、持ち高調整の債券買い(金利低下)も入り、米国金利は上昇幅を縮小する展開となった。

##### ●各国10年金利の月次騰落幅 (%)



豪州金利は上昇。7-9月期CPIが市場予想を上回ったことやRBA(オーストラリア準備銀行)による金融緩和の縮小観測から、債券売りが優勢となった。

##### ●各国10年金利の推移 (%)

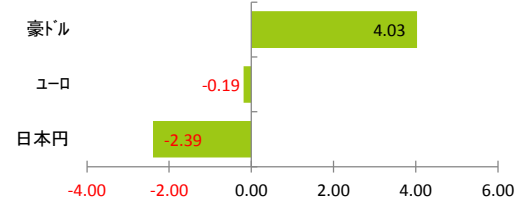


国内金利は上昇。米国金利が上昇したことや岸田新政権による新たな経済対策を背景とした国債増発懸念から債券売りが優勢となった。

#### 3. 為替市場

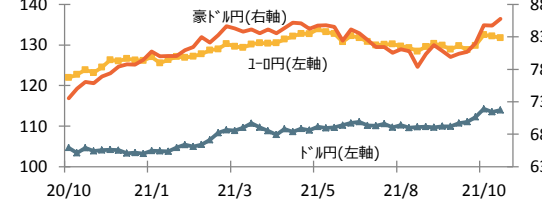
外国為替相場は円が下落。ドル/円相場は、米雇用統計後に11月FOMCでテーパリング開始が決定されるとの見方が強まったことや、資源価格や日米株式相場の上昇を背景にリスク選好の動きも加わり、一時114円70銭まで上昇した。月後半にかけては、高値警戒感から利益確定の売りが入ったことに加え、米国金利の低下を受けて、円買いドル売りも入り、上昇幅を縮小する展開となった。

##### ●各国通貨の月次騰落率 (対ドル、%)



豪ドルは上昇。石炭など資源価格の上昇を背景に豪ドル買いが優勢となった。また、最大都市シドニーでロックダウンが解除され、経済活動再開への期待が高まったことも相場上昇を後押しした。

##### ●主要通貨の推移 (対円)

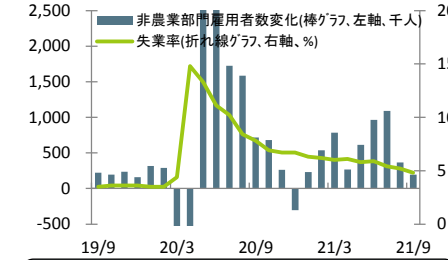


ユーロ/円相場は上昇。ドル/円相場などの円売りの流れが波及したことや、欧州金利の上昇を背景に、円売りユーロ買いが優勢となった。

### ○マクロ経済の動向 (10月中)

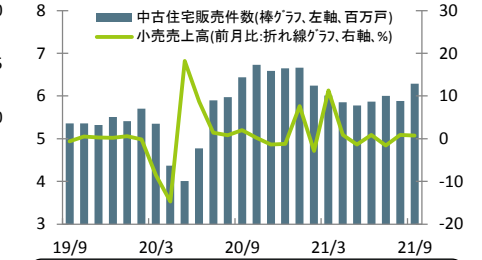
#### 1. 米国経済

##### ●経済指標の推移①



雇用者数は、前月比+19.4万人と市場予想(50.0万人)を下回った。失業率は4.8%と前月(5.2%)から改善した。

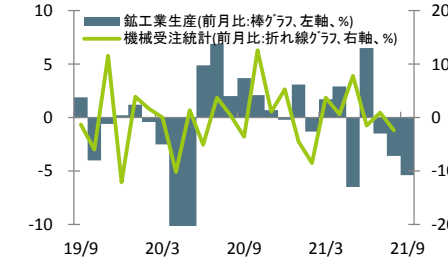
##### ●経済指標の推移②



小売売上高は前月比+0.7%と増加。中古住宅販売件数は629万戸(前月比+41万戸)と2020年9月以来の伸び率となった。

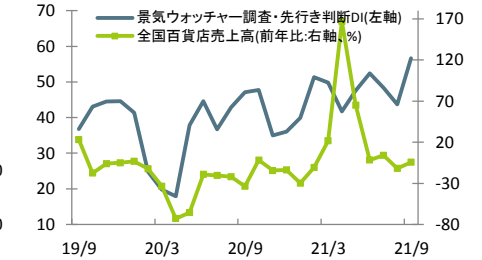
#### 2. 日本経済

##### ●経済指標の推移①



鉱工業生産は半導体不足などが影響し、前月比▲5.4%と3か月連続マイナス。機械受注も前月比▲2.4%と2ヶ月ぶりのマイナスとなった。

##### ●経済指標の推移②



全国百貨店売上高は前年比▲4.3%と2ヶ月連続マイナスとなった。先行き判断DIは56.6(前月比+12.9pt)と改善した。

### ○金融市場の見通し

#### 1. 株式市場

国内株式相場は、衆議院選挙で与党が絶対安定多数を上回り、国内政治情勢の先行き不透明感が後退したことや、日銀による大規模な金融緩和政策が継続するとの思惑から底堅く推移するとの見方が多い。ただし、供給制約を背景とした企業の業績不透明感が高まる場面では、売り圧力が強まる可能性もある。

米国株式相場は、堅調な企業業績を背景に、底堅く推移するとの見方が多い。ただし、早期利上げ観測やインフレ懸念が強まる場面では株価は調整色を強める可能性もある。

#### 2. 債券市場

国内金利は、日銀による大規模な金融緩和政策が継続するとの思惑から金利は低位で安定するとの見方が多い。ただし、経済対策を背景とした国債増発懸念が意識される場面では金利に上昇圧力がかかる可能性もある。

米国金利は、FRBによる早期の利上げ観測や原油高などを背景としたインフレ懸念から、金利は上昇圧力がかかりやすいとの見方が多い。ただし、米国の景気減速に対する根強い懸念から、金利の上昇幅は限定的との見方もある。

#### 3. 為替市場

ドル/円相場は、世界的なインフレ懸念が爆発するなか、早期の利上げ観測への警戒感から底堅く推移するとの見方が多い。また、株高を背景にリスク選好の円売りが継続しやすいことに加え、良好な米経済指標や企業決算も相場を下支えするとみられている。一方で、高値警戒感から利益確定の売りが出やすいことに加え、資源価格の下落などを通じインフレは一時的との見方が強まる状況となれば円買いドル売りにつながる可能性もある。

※本資料は各種データに基づき参考資料として作成しておりますが、その正確性・確実性を保証するものではありません。ここに記載された意見等が事前の連絡なしに変更されることもあります。したがってこれらのコメントに全面的に依存して市場性商品の取引導入を決定することはお勧めできません。また本資料は情報提供を目的とし、商品の売買勧誘や申し出を意図したものではありません。